

令和 6 年度 研修員個人研究 研究要約（No. 1）

長崎県教育センター研修員の研究主題・副主題及び研究要約は以下のとおりです。

所 属	氏 名	研究主題及び研究副主題	研究要約
教科・経営研修課	澁谷 理絵	教員の第Ⅰステージ初期段階における授業観の形成を目指して ～「高等学校初任者のための授業づくりハンドブック」の活用を通して～	令和 4 年 12 月の中央教育審議会答申では、「令和 3 年答申が示す子供一人一人の学びの姿は、教師及び教職志願者が子供の頃に受けてきた授業とは必ずしも一致しない可能性がある」「教員養成段階においては、これまでの教育の単なる再生産に陥るのではなく、教職志願者の『授業観・学習観』の転換を図り、『令和の日本型学校教育』を担うにふさわしい教師を育成する必要がある」と述べている。そこで、本研究では、教員の第Ⅰステージ初期段階における授業観形成の支援となるような「授業づくりハンドブック」を作成し、それを活用しながら実践を繰り返すことで、第Ⅰステージ初期段階の教員の授業観形成に資することができると考える。令和 6 年 10 月に行われた長崎県公立高等学校初任者研修教科研修②（数学科）で、「授業づくりハンドブック」の一部を活用し、その効果を検証した結果、肯定的な回答を得ることができた。本研究の詳細及び成果物をここに報告する。
	平田 咲希	造形的な見方・考え方を働かせる中学校美術科の授業づくり ～〔共通事項〕を明確に位置付けた学習過程を通して～	学習指導要領では、〔共通事項〕を造形的な視点を豊かにするために必要な「知識」として位置付けている。自身の指導を振り返ってみると、〔共通事項〕の指導事項を各題材でどのように育成していくか明確に意識できていなかった。また、県内美術科教師に行ったアンケートにおいても〔共通事項〕の指導についての課題が挙げられた。 そこで本研究では、令和 4 年度に作成した〔共通事項〕を明確に位置付けた年間指導計画、〔共通事項〕の実感を伴う理解を促す題材展開の構造化等の理論を基に、指導の具現化を試みた。 〔共通事項〕（1）ア（ア）「色彩の色味、明るさ、鮮やかさを捉える」を重点指導事項とする学習指導案を作成し、実感を伴う理解につなげる教師の働き掛けの具体化を行った。
	三根 祐太郎	「学びに向かう力、人間性等」を涵養する社会科授業に関する研究 ～生徒のメタ認知を促す単元計画に基づく授業実践とワークシートの活用を通して～	本研究は、生徒のメタ認知を促す学習場面を教師が単元計画に位置付け、単元ワークシートを活用した授業実践によって、生徒に「主体的に学習に取り組む態度」を養い、「学びに向かう力、人間性等」を涵養する社会科授業について提案するものである。 研究に当たっては、中学校歴史的分野「古代までの日本」を題材に、生徒のメタ認知を促す場面を設定した単元計画と、各場面において、学習状況の把握と学習の調整をどのように行ったのかを生徒が自ら振り返ることができるような単元ワークシートの活用について構想し、検証授業を行った。その後、生徒が主体的に学習に取り組む姿を具体化した検証軸を基に、生徒アンケートの結果やワークシートへの記述を分析し、研究の有効性や課題を明らかにした。また、明らかになった課題の解決を図るために、デジタル化したワークシートの活用による生徒の主体的な学びを支える方策を示すものである。

詳しい内容をお知りになりたい方は、研修員個人研究報告書が玖島の杜図書館資料室（本館 3 階）にありますので、是非御覧ください。

令和6年度 研修員個人研究 研究要約（No. 2）

長崎県教育センター研修員の研究主題・副主題及び研究要約は以下のとおりです。

所 属	氏 名	研究主題及び研究副主題	研究要約
教科・経営研修課	野口 稿二	中学校理科における科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指した指導の在り方 ～探究の過程での「考察・推論」場面における意図的な教師の働き掛けを通して～	自身の授業実践の振り返りと令和4年度全国学力・学習状況調査中学校理科の結果から、「探究の過程」における「考察・推論」場面での指導の工夫・改善の必要があると考えた。 本研究では、「考察・推論」場面における「教師の意図」を明確にして評価規準を設定した上で、生徒が観察・実験の結果を分析して解釈し、どのような記述をするかといった「子供の姿」を具体的に想定した考察類型を作成した。また、実践検証において、考察類型を作成するときに用いた「子供の姿」を見取る視点と授業実践における生徒の考察の記述内容との重なりを検証した。 その結果、評価規準を基に設定した評価のポイントを「子供の姿」を見取る視点として、実際の生徒の考察の記述内容を見取り、評価することができた。また、実践検証後に、「考察・推論」場面における指導の改善のために、意図的な「教師の働き掛け」を構想した。
	大島 優美	自力で読み取り、考える力を育む小学校算数科における指導の在り方 ～導入段階における読解力の視点からの手立てと自力解決につながる支援の充実を通して～	これまでの自身の実践を省みたとき、問題を正しく読み取り、自分の考えを表現することが苦手な児童に対する指導の在り方に難しさを感じてきた。全国学力・学習状況調査や県学力調査においても、式と場面を関連付けて読み取ることや式に表したり式に表されている関係を考察したりすることが課題であると挙げられている。 そこで、本研究では、小学校算数科における自力解決に至るまでの学習過程に焦点を当てる。昨年度の基礎研究を踏まえ、問題を正しく読み取るための手立てや、図を用いて考えることが困難な児童が活用できる補助教材を用いた支援が自力解決につながることに有効であるかを検証した。授業の具体、検証授業の前後に実践協力校の児童を対象に実施したアンケート結果、児童が用いた図と思考の変容、適用問題、及び授業における児童の反応等の分析により得られた成果と課題についてまとめた。
	赤山 大地	中学校理科における科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指した授業づくり ～探究の見通しを持ち検証計画を立案するための指導を通して～	子供が探究の見通しをもって学習し、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する授業づくりを目指して研究を行った。 具体的には、「探究の過程」における「自然現象に対する気付き」「課題の設定」「仮説の設定」「検証計画の立案」の過程で、子供が「何に関係するか」「何を明らかにするか」「どのように調べるか」「どのような結果になるか」を考えられる授業を構想し、必要な「教師の働き掛け」について検討した。 これにより、探究の見通しをもって学ぶ「子供の姿」と、必要な「教師の働き掛け」についての具体を明らかにして、科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指す授業の一案を示すことができた。

詳しい内容をお知りになりたい方は、研修員個人研究報告書が玖島の杜図書館資料室（本館3階）にありますので、是非御覧ください。

令和6年度 研修員個人研究 研究要約（No. 3）

長崎県教育センター研修員の研究主題・副主題及び研究要約は以下のとおりです。

所属	氏名	研究主題及び研究副主題	研究要約
教科・経営研修課	長瀬 陽一	「差別解消に向けて、自他の人権を守るための実践行動につながる系統的なカリキュラム」の提案 ～小・中・高の各段階における学習内容の全体像とともに、授業事例案を重ねて提示する試み～	昨年度までの個人研究では、「差別解消に向けて、自他の人権を守るための実践行動につながる系統的なカリキュラム」の全体像を考察してきた。今年度は、各地区の人権教育研究会等と連携し、カリキュラム全体像の検証と具体的な学習内容の配置の検討を行った。さらに、全体像に重ねて学習指導案を提示するために、新規に作成するとともに、長崎県人権教育研究協議会が蓄積してきたものを検討してきた。この研究を進めることは、結果的に人権課題の解消に向けた授業実践が県内で広く取り組まれることになると考え、研究を行った。
	山口 勝也	子どもの「なりたい自分になる」進路保障の実践の充実を目指して ～子どもの就学・修学を支える制度等の整理とその活用方法の提案を通して～	不登校や子どもの貧困の問題など、子どもの進路保障に関わる現状が報告されているが、まだ十分とは言えない。そのような背景の中、「こども大綱」が目指す「こどもまんなか社会」の実現を目指した基本方針の中でも子どもの進路保障について言及されており、全ての子どもの進路保障のために学校教育は重要な役割を担っていると見える。「進路保障は人権・同和教育の総和」という原則を確立してきた人権教育の実践は、今後ますますその重要性が高まっていくと考えられる。 そこで本研究では、子どもを取り巻く現状と課題、人権・同和教育における進路保障に関する研修の在り方について整理した。さらに、子どもの就学・修学を支える諸制度について情報の収集と整理を行い、研修資料冊子を作成した。 研究を通して、作成した研修資料冊子を活用した研修と子どもの就学・修学を支える制度の周知・理解に向けた方向性について提案する。
教育支援研修課	向井 美保	小・中学校の難聴特別支援学級に在籍する聴覚障害児の支援の充実を目指して ～難聴特別支援学級の担当教員のニーズを踏まえたスターターブックの作成を通して～	筆者は以前ろう学校での勤務経験があり、その当時から幼稚部修了後、地域の小学校へ就学する児童が一定数いた。小学校の難聴特別支援学級（以下、難聴学級）に就学した児童の保護者から、特別支援教育に携わった経験のない教員が担任になったことや、児童の実態に配慮した指導・支援をしてもらえないことについて相談を受けることがあった。 そこで、昨年度は文献調査等から難聴学級が新設される学校や担当する教員の不安や戸惑いを把握し内容を検討することで、難聴学級を担当する教員の悩みに沿った「スターターブック」を作成することができた。 今年度は、難聴学級を担当する教員やろう学校の特別支援教育コーディネーターに「スターターブック」を活用してもらうことで、見通しをもって年度初めの学級経営や聴覚障害児への指導・支援に取り組むための一助となったか、難聴学級に関わる教員からの相談への対応や支援を行う上で有効であったかを検証する。

詳しい内容をお知りになりたい方は、研修員個人研究報告書が玖島の杜図書館資料室（本館3階）にありますので、是非御覧ください。

令和6年度 研修員個人研究 研究要約（No. 4）

長崎県教育センター研修員の研究主題・副主題及び研究要約は以下のとおりです。

所属	氏名	研究主題及び研究副主題	研究要約
教育支援研修課	原 尚史	算数科における学習支援の充実を目指して～「わかった」「できた」につながる支援集の作成を通して～	文部科学省（2022）の調査によると通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒の割合は増加してきているが、支援が十分に行き届いているとは言えないという結果が報告されている。自身の教職経験の中でも、学習上の困難さを抱える児童を担任したことがあり、特に算数科においてそれが顕著だったが、効果的な指導ができていたのかは疑問が残る。そこで、昨年度は、算数科学習における児童のつまずきとそれに対する手立てを記載した支援集を作成することで、教師の手立てを明確にすることができた。 今年度は、実践検証協力校に支援集の活用を提案し、支援集が教員にとって活用しやすいものになっているのか、掲載内容がつまずきの事前の予想に有効であるのか、実際の指導に生かすことで児童への学習支援充実の一助となるのかを検証した。
	平山 拓也	必要な支援を求めながら自分の意思で行動できる生徒を育てるキャリア教育の充実を目指して～「教え合いを重視した協働学習」においてワークスキル・ライフスキルの育成を図る～	長崎県教育委員会（2024, 2022）によると県内知的特別支援学校高等部の就職希望者に対する就職率はここ 10 年間で平均約 92%である。一方で卒業生が短期間で離職するケースがある。実際に卒業生の離職について耳にする中で、ワークスキルの育成を重視したこれまでの自身の指導に疑問を感じたため、筆者が勤務経験のある知的障害特別支援学校高等部の職業学科で指導している専門教科に着目した。専門教科における協働学習で行われる異学年同士の教え合いにワークスキルやライフスキルの視点を取り入れることで、教育効果が高まり、必要な支援を求めながら自分の意思で行動できる生徒の育成につながると考えた。 そこで、本研究ではワークスキルやライフスキルの視点を取り入れた卒業後に必要な力を整理し、効果的に育成していくための「教え合いを重視した協働学習」の活動の在り方を検討した。
	井上 博数	非認知能力の向上を目指した指導方法の検討～G R I Tに着目したコーチングの実践を通して～	V U C A時代といわれる近年、生涯にわたる適応を支える能力として認知能力に加え、非認知能力の重要性が国内外で指摘されており、学習指導要領でもその育成が求められている。しかし、非認知能力向上のための具体的な指導方法が広く浸透しているとはいえず、学校現場では負担感の増加や取組の形骸化の問題が生じている。そこで、本研究では非認知能力の中でも、長期的な目標達成に必要な情熱と粘り強さを指し、ウェルビーイングの向上や学業及びキャリアの成功に寄与するとされるG R I T（やり抜く力）に着目した。今年度は、G R I T向上を目指した生徒用ポートフォリオシートと教師の指導・支援の在り方をまとめたコーチング・ハンドブックを開発した。また、これらの学校現場での具体的な活用イメージを提示し、I C T化による指導の効率化と生徒の主体的な学びを支援する展望を示した。今後は、アンケート調査やG R I T尺度を用いた検証を通じて、研究の妥当性を評価し、更なる改善を目指していく。

詳しい内容をお知りになりたい方は、研修員個人研究報告書が玖島の杜図書館資料室（本館3階）にありますので、是非御覧ください。